様　式　Ｃ－４１

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　５ 月 １１ 日現在

機関番号：１６３０１
研究種目：奨励研究
研究期間：2019～2019
課題番号：１９Ｈ００１６０

研究課題名　　理論と実践を融合するカリキュラムにおける学生の学習の変化

研究代表者
砂田　寛雅（SUNADA, HIROMASA）

愛媛大学・社会共創学部・副課長

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　450,000円

研究成果の概要：学際カリキュラムにおける学習過程の可視化を試みた。その結果、フィールドワークなどの実践科目への取り組みが起点となり、学生の知的好奇心を誘発し、周辺の専門知識や技術の修得、さらには多様な学問分野、人、社会、自己のキャリアにも関連性を見出し、統合的視点を有しながら、理論科目と実践科目を主体的に往還し、学習経験を積み上げているといった、学生の学習過程が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、学際カリキュラムに学生の学習過程が明らかになったことである。さらに、拡張的学習理論を分析枠組みとして使用した結果、高次の学習および協働学習が行われる。このことは、エンゲストロームが、「拡張的学習の方法論は、包括的に示されるのではなく、概略についてのスケッチであり、包括的な説明は、具体的実証的な研究を結び合わされ補われることによって可能であり、将来の課題として残される」とした課題を1方向から実証したという点でも意義深い。

研究分野：高等教育

キーワード：学際カリキュラム　学習過程　拡張的学習理論　協働学習

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究の目的

本研究は、学際カリキュラムにおいて、学生がどのように学び、理論科目と実践科目とを関連づけるといった統合的視点を身に付けているのかを明らかにすることを目的とする。

２．研究成果

学際カリキュラムにおける学習過程の可視化を試みた。その結果、フィールドワークなどの実践科目への取り組みが起点となり、学生の知的好奇心を誘発し、周辺の専門知識や技術の修得、さらには多様な学問分野、人、社会、自己のキャリアにも関連性を見出し、統合的視点を有しながら、理論科目と実践科目を主体的に往還し、学習経験を積み上げているといった、学生の学習過程が明らかとなった。具体的には、拡張的学習理論で示される、高次の学習および協働的学習が行われる。このことは、エンゲストロームが、「拡張的学習の方法論は、包括的に示されるのではなく、概略についてのスケッチであり、包括的な説明は、具体的実証的な研究を結び合わされ補われることによって可能であり、将来の課題として残される」とした課題を１方向から実証したという点でも意義深い。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名